

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 知識に基づく構造的言語処理の確立と知識インフラの構築
2. 研究代表者： 黒橋 禎夫（京都大学 大学院情報学研究科 教授）
3. 中間評価結果

依存型意味論に基づく高階論理表示の合成と推論、大規模な語彙知識を活用した形態素解析、テキスト横断的な知識の関連付けなどの要素技術に関する研究が各グループで順調に進んでいる。論文は、トップカンファレンスなどを筆頭に多数発表されており、質的にも量的にも十分なレベルに達している。特に、高階論理表示の合成と推論に関する研究は、学術的な独自性が高く、期待を上回る成果があがっており今後が強く期待される。より判りやすい出口イメージに関する説明が望まれる。

チーム全体としては、膨大なテキストコーパスを活用した頑健で高精度な自然言語処理と、その自然言語処理技術に基づくテキスト間の関連付けや意味的検索を可能とする知識インフラの構築を目指している。中間評価の時点では、この目標に向けた基礎固めが進んだ段階であるが、今後より目的志向の研究を進めることで、高度知識社会の基盤構築に資する成果が期待できる。

本質的に難しい問題に取り組んでいるため、要素技術に関しても改善すべき点は無数にあると思われるが、残りの研究期間では、知識インフラの構築という目的をより意識した研究の推進を期待する。そのために、構築を目指す知識インフラの有効性を示せる事例を積みあげ、具体的に以前出来なかった何が出来るようになったかを判りやすく、且つ、そのベネフィットが専門外の一般ユーザにも強く感じられるように工夫して頂きたい。